

本年度ふるさとづくり大賞

町家の改修、活用評価

坂井市の一般社団法人三國會所が20日、本年度ふるさとづくり大賞の総務大臣賞(団体表彰)を受賞した。同市三國町の旧市街地の空き家をゲストハウスに改修して活用するなど、町並みの保存と自主財源化への取り組みが評価された。表彰式は2月4日、都内のホテルで行われる。

同大賞は、ふるさとをより良くしようと全国各地で活動する団体、個人を表彰する制度で、ことしで34回目。総務大臣賞は総務大臣賞に次ぐ賞で、同會所など5団体と個人3人が選ばれた。三國會所は2012年に設立。地元住民や観光関係者らでつくる前身の協議会から15年以上、北前船で栄えた三國町旧市街地でまちづくりに取り組んでいる。13年度から3カ年事業で誘客と商業再生、

田中さん 最終10人に

越前市

アウトドアの分野で活躍するリーダーの功績に光を当てようと創設された「ジャパン・アウトドア・リーダーズ・アワード(JOLA)」の運営委員会は、環境文化研究所(越前市)の代表理



田中謙次さん

アウトドア指導者顕彰

事、田中謙次さん(46)ら10人をファイナリストとして選んだ。2月9日に東京で開かれる表彰式で、10人の中から大賞が発表される。

JOLAは、山や川、海、田畑などさまざまなフィールドで体験を大切にしたい人づくりを実践するリーダーを表彰しようと2014年、自然体験に取り組む団体の代表者や研究者らにより運営委が発足

北陸で唯一 来月大賞発表

冒険家の三浦雄一郎さんらもアドバイザーとして携わっている。

今回初めて開催された「JOLA 2017」には全国から81人の応募があり、1次2次審査に続き昨年11、12月に最終審査を実施。日本野外教育学会理事長の星野敏男朗治大教授らが独創性や社会性など5項目について評価し、ファイナリストを選んだ。

田中さんは北陸3県からは唯一の選出。川での活動を推進する全国協議会などのリーダーとして約15年間、県内

市職員、県内外の大学生と協力して町家などの空き家を改修。6軒をゲストハウスやフレンチ絵葉店、雑貨店に再生させるなど、貴重な建築資源継承への長期の取り組みが評価された。

大和久米登理事長は「三國の可能性と価値を信じ、なりわいにつなげようと続けてきたことが認められてうれしい。今後も歴史文化、景観を観光につなげていきたい」と話していた。(山崎彩)

外で指導者育成に携わり、これまで500人以上を教えた。育てたリーダーとともにまちづくりにも参画し「そうだー川に行こう」「おしゃれなり・BAR」など日野川を舞台とした取り組みを大きく発展させてきた。

第1回のアワードで専門家や先輩に評価されたことは大きな励みになるとし「自分はもらったバトンをつないでいるだけ。福井にもっと『川ガキ』が増えるよう、まい進していきたい」と話している。(大谷純平)

鳥インフル対策ケージに



飼育員に抱えられ、対策ケージへ運ばれるさっちゃん。20日、越前市中野町

あわら市の北瀧湖、日野川水系は渡り鳥のルートになっている。兵庫県立コウノトリの

対策ケージの飼育ケージの根があり、コウノトリの死骸が反響が出たことを受け、福井県は20日、越前市白山区で飼育している国の特別天然記念物コウノトリ「さっちゃん」ペアを鳥インフルエンザ対策ケージに移した。鳥インフルエンザの簡易検査も行ったが、2羽とも陰性だった。県によると、野鳥の死骸が見つかった「片野鴨池」と、

自殺 遺族と再発防止で合意

な労務管理をしないという内容も盛り込まれた。

電通は、幸美さんと川人氏が出席する幹部向けの研修会を3カ月以内に実施。再発防止策の実施状況も毎年12月に

かれん「いけ花展」本社で開幕

